

晋山結制

R 5. 3. 29 於、加茂法話会

- 一、
 - ① 晋山
 - ② 新命
 - ③ 安下処あんげしよ
 - ④ 結制けつせい
 - ⑤ 雨安居うあんご
 - ⑥ 禁足
 - ⑦ 九旬安居くじゆん
 - ⑧ 夏(雨)安居、冬安居
 - ⑨ 江湖会こうこえ
 - ⑩ 首座しゆぞ
 - ⑪ 首座入寺式
 - ⑫ 首座法戦式
 - ⑬ 晋山開堂
 - ⑭ 三度出世の式
- 立職りつしよくく衣・お袈裟に白のサン、「座元」
転衣てんねく色のついたお袈裟・色衣しきい||住職・副住職、「和尚」
建法幢けんぽうどうく緋衣、「大和尚」、近年まで建法幢して初めて色衣が被着できた

二、結制く結集と制度

一カ処に集まって外に出ないで修行すること(=禁足)。すなわち、お釈迦さま(祇園精舎や竹林精舎)や歴代の祖師方によって決められた掟や決まりを守って、みんなで結集して修行すること。中国では八世紀頃江西省の馬祖道一様、湖南省の石頭希遷様の二師のもとを修行僧が往来安居したため、江湖会こうこえともいう。夏冬二回の結。現在では、両大本山や専門僧堂でのみ修行されている。

三、

「安居の面目和合に依る 即ち是れ靈山大道場なり」

「人煙近しと雖も地霊閑なり 前は海湾を眺め後ろは山に面す 凡聖龍蛇同聚の會 安居は六和顔を見ることを要す」敦賀永嚴寺結制上堂 森田悟由禅師

四、儀式によって人が作られる

報恩謝徳の思いが強くなるく仏祖、本師、檀信徒や寺族、目に見えない大いなるもの(般若波羅蜜) ご恩

大衆の威神力

弟子(首座)誕生

寺檀関係が深まっていく

住職と役員の結束が強まる

大和尚の法階となり、緋衣が被着でき、金襴のお袈裟を掛けられる
経費がかかるし準備が大変

五、提案

九旬安居は不可能であるが工夫して、その代わりとなるものをもって修行する。